

自らの体験から学ぶ孤立死問題

マンションコミュニティ研究会 磯野重三郎

2008年国立社会保障・人口問題研究所の2008年推計によると我国の人口は、2005年以降長期にわたり減少、2050年1億59万人、2075年7808万人、2100年6241万人に、世帯数2005年4906万世帯～2015年まで増加し、5060万世帯でピークを迎える。一般世帯平均人員は2005年2.56人から2030年に2.27人まで減少が続くが、変化の速度が次第に緩やかになることが見込める。高齢化人口そのものは団塊世代との兼ね合いもあり、2040年過ぎてピークを迎えるも、総人口も減少しているため、高齢者比率（65歳以上）は増加。2035年にほぼ3人に一人が、2055年には2.5人に一人が高齢者となる。

もし、今100戸程度のマンションを新築で、居住者の年代構成を想定し、理想的な長期修繕計画、計画修繕、管理組合運営とは？を計画したらどう様なものになるかと思い、人口推計等を調べ参考にしたいとの思いが、上記の調査をさせたところで、そのような思いをめぐらしていた矢先のことです。

1. 一人住まいは誰にでも突然孤立死は起きうる？

私は4.5年前に家内に先立たれ気楽な独り住まい。2週間前の日曜日、ある会の挨拶に出席、通常だと仲間と帰りに一杯、誘われたのですが、この日に限り何となくだるく帰宅、月・火と自宅で溜まったものを整理一段落、火曜の夕方、熱っぽい39度程度、4月に警備保障会社とホームセキュリティの契約、酒も飲まずに7時頃に就寝、神の知らせ、今まで一度も手元に置いた事のない手元スイッチを枕元に、夜中に2～3回トイレに（普段のこと）5時半（もう少し早かったのでは？）頃と思うがトイレに行こうと思い、立ち上がろうとしたが全く動けず、悪戦苦闘半径1m動くのに2時間位と思う、手元スイッチに辿りついたのは、7時23分、警備会社にやっと連絡10分ほどで駆けつけてくれた。多分、後少し連絡が遅かったら、意識不明になっていたと思う、そうなったら結果は想像にお任せする。

今回、私はついていて、私自身まったく動けないなんて想像も出来なかった。

2. 一人・二人住まい緊急時連絡方法を考えておきましょう！

人間には、普段からは想像も出来ないことが起こり得るということを学んだ。それに対応できると思うことはどんなに小さなことでもいい、しておくべきと思う。ここ2年間コミ研でやってきたこと、いろいろと皆で考え提案していきたい！